



2020年3月に退任され東京理科大学名誉教授に就任された井上隆先生（本文中P04にご挨拶を掲載）

2021 SPRING

会長挨拶

2020年は春先からのコロナ禍で、野田建築会活動も大幅な制約を受けましたが、会員各位、特に役員会の多大なるご協力のもと、第12回定期総会を開催することが出来ましたことに感謝致します。なお、コロナ感染拡散防止の観点から対面開催が出来ず、リモート決議とさせて頂いた点は、会員皆さまのご理解を得られたものと承知しております。

昨期活動においては、NAA賞（大学審査を経た卒業生）授与、会報発行（年2回）、建築見学会（同窓生会社への訪問）に加え、新企画“NODA・アーキサロン”や“会報内リレー式コラム”

といった形で、同窓生活躍の場をより多く紹介する場を設けたことで、野田建築会活動活性化へのきっかけが出来ました。今期は更なる同窓の発掘・紹介する場として、リモートを活用（併用）しながら活動を広げていきたいとおもいます。また理窓会関連団体として、築理会（工学部建築学科同窓会）、薬学部同窓会との交流も深めながら、より一層の学生支援活動や大学への貢献に繋げるよう尽力していきます。

コロナの終息が見えないなかですが、何事にも前向きな姿勢で野田建築会を盛り上げていく所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

あいばら こういち
粟飯原 功一 略歴

1963年 千葉県佐倉市生まれ
1985年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
（井口道雄研究室）
1985年 （株）竹中工務店入社後
主に施工管理を担当
2013年 葛飾キャンパス図書館棟担当（作業所長）
現在 東関東支店 作業所長
2016年より工学部建築学科
建築施工非常勤を担当



オンライン総会の様子（画面一部切りとり）

行川さをりさんのオンラインライブを共催



総会後の懇親会にて理工学部建築学科出身のボーカリスト「行川さをり」さんのライブを予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により一旦中止となりました。しかし、行川さんのご尽力により、オンライン上でのライブを開催していただきました。

実際のライブハウスからの配信になり、ピアノも抜群の調律で、心地よい空気感を届けていただきました。

演奏：行川さをり（うた） Asu（ピアノ）DUO

行川さをりオフィシャルサイト
<http://namekawasawori.com/>



野田建築会第12回定期総会報告

第12回定期総会は、2020年5月30日に開催されました。総会員（6,793名）の1/60（114名）を満了参加者161名（出席者25名、委任状136名）でした。新型コロナ禍のためWEB会議にて開催され、次の議案について審議され承認されました。

第1号議案： 事業部会 2018年度、2019年度の活動報告および2020年度、2021年度の活動計画（案）

第2号議案： 会報部会 2018年度、2019年度の活動報告および2020年度、2021年度の活動計画（案）

第3号議案： 名簿部会 2018年度、2019年度の活動報告および2020年度、2021年度の活動計画（案）

第4号議案： 情報部会 2018年度、2019年度の活動報告および2020年度、2021年度の活動計画（案）

第5号議案： 会計および監査

2018年度、2019年度の会計報告・監査報告および2020年度、2021年度予算（案）

第6号議案： 野田建築会会則改定の件

第7号議案： 任期満了に伴う役員改選について

以上

第5号議案：会計および監査

<決算>

項目	決算	
	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)
1. 収入		
年会費	765,000	966,000
寄付	107,575	59,000
年会費二重払い	0	0
総会・懇親会費	63,000	0
広告収入	616,000	336,000
大学からの補助金	417,470	0
利息	13	10
合計	1,969,058	1,361,010
2. 支出		
名簿部会	215	44,000
情報部会	119,224	122,580
会報部会	886,111	689,650
事業部会	151,710	45,520
会計(経費)	13,794	8,310
シアターナイト協賛金	20,000	20,000
NAA20周年関連費用	475,438	0
幹事会交通費	0	104,000
NODAアーキサロン会場費	0	40,000
合計	1,666,492	1,074,060
3. 収支		
収入	1,969,058	1,362,010
支出	1,666,492	1,074,060
収支	302,566	286,950
前期繰越金	2,515,873	2,818,439
次期繰越金	2,818,439	3,105,389

<予算>

項目	予算	
	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
1. 収入		
年会費	876,000	900,000
寄付	100,000	100,000
広告収入	224,000	224,000
合計	1,200,000	1,224,000
2. 支出		
名簿部会	98,000	98,000
情報部会	122,580	122,580
会報部会	669,110	669,110
事業部会	124,000	174,000
会計(経費)	70,000	70,000
シアターナイト協賛金	20,000	20,000
NODAアーキサロン	40,000	40,000
合計	1,143,690	1,193,690
3. 収支		
収入	1,200,000	1,224,000
支出	1,143,690	1,193,690
収支	56,310	30,310
前期繰越金	3,105,389	3,161,699
次期繰越金	3,161,699	3,192,009

第6号議案：野田建築会会則改定の件 ※会則全文は野田建築会ホームページをご覧ください

改正前(原文)	改正後
<p>第5章 役員等 第15条(組織) (略) (2) 役員は、会長、副会長、事務局長、会計、監査役ならびに顧問とする。 (略)</p> <p>第16条(会長、副会長、顧問) (略) (4) 顧問は、会長または副会長経験者とし、本会の補佐、運営に関する助言をする。</p>	<p>第5章 役員等 第15条(組織) (略) (2) 役員は、会長、副会長、事務局長、会計、ならびに監査役とする。 (略)</p> <p>第16条(会長、副会長) (略) (4) <削除></p> <p>第21条(顧問) (1) 顧問は、会長および副会長経験者のなかから会長が指名し、役員会で承認する。 (2) 顧問は、本会の重要な会務について、会長の諮問に応じ、意見を述べることができる。</p>
<第21条以降>	<第22条からの数で置き換える>

第7号議案：任期満了に伴う役員改選について

<第12期役員>

2020～2021年(令和2年～3年)度

会長 粟飯原功一(S60年卒)
副会長 出塚哲也(S59年卒)、菱崎嘉昭(S62年卒)、
 鳥山暁子(H13年卒)
事務局長 五十嵐洋也(S53年卒)
会計 白岩和浩(S60年卒)、八田直人(S55年卒)
監査役 立見栄司(S45年卒)、熊井和夫(S54年卒)
顧問 山崎晃弘(S51年卒)

<常任幹事> ※は部会長を示す

事業部会 菱崎嘉昭(兼任)※、出塚哲也(兼任)、星合善文(S63年卒)、野原聰哲(S63年卒)、佐久間達也(H05年卒)、児玉雅美(H13年卒)
会報部会 鳥山暁子(兼任)※、大野芳俊(S63年卒)、粟飯原功一(兼任)
名簿部会 小長谷哲史(H15年卒)※、出塚哲也(兼任)、涌井栄治(S60年卒)
情報部会 児玉雅美(兼任)※、高安重一(H01年卒)

退職の節目に



いのうえ たかし
井上 隆

1954年 富山県生まれ
1973年 東京大学理科I類入学
1977年 東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻修士課程
建設省入省住宅局
1979年 建設省入省住宅局
1982年 東京大学工学部建築学科助手
1989年 東京理科大学理工学部建築学科専任講師
1997年 ウィーン工科大学客員研究員
2002年 東京理科大学理工学部建築学科教授
2014年 (公益社団法人)空気調和・衛生工学会 会長
2020年 東京理科大学名誉教授
東京電機大学客員教授

一年前、卒業アルバムに「どうなる環境、どうする建築」と題して書かせて頂いた。

その際は、地球温暖化は持続可能な社会・未来を構築する上で既に各方面で顕在化しつつある重大リスクであり、今我々がこの問題に取り組み軌道修正しなければ不可逆で回復不可能なスパイラルに陥りかねない、建築・住宅分野は極めて深い関わりを有しており携わる立場の責任はより重くなるがこれは社会の期待や評価の高まりと表裏一体である、等々書き込んだ。

執筆は新型コロナウイルス感染拡大が緊迫化する以前である。「環境」の中に新型コロナの影響は含まれていない。

直後から異例づくめの日々が始まる。学校は閉鎖、卒業式・謝恩会・追出しコンパ・打ち上げ・入学式等々の催しは全て中止となった。オリンピックの開催延期、国際的な社会・経済の混乱もご存知のとおりである。一年が過ぎようとしているが、実行委員会に周到に準備して頂いた最終講義や退職記念行事さえ未だに開催出来ずにいる。

私は平成元年4月に理工学部建築学科に専任講師として赴任、平成最終年度まで31年間に亘りお世話になった。お陰様で大変気持ち良く仕事をさせて頂いた。代々の学生を含め活動を支えて頂いた多くの方々に心よりお礼を申し上げます。

遡ると、大学に入学した年(1973年)に第一次オイル

ショック、社会・経済の混乱を経験し建築学科に進み、卒業論文は松尾陽先生の下、当時最新の動的熱負荷計算プログラムを用いてオフィスビルの省エネルギーを地域性・季節性の観点から論ずることを試みた。以来、建築・住宅の省エネルギーに携わることになる。

ただ大学院修了後は、進路を迷い一旦は建設省(現国交省)で行政職に就き、通産・大蔵など他省庁、議員会館・国会・関係公益法人等も出入りした。日々深夜に及ぶ行政・国政の厳しさ・責任も垣間見させて頂いたが一つ一つが身となり蓄積となる実感が得られない、自ら関心・興味ある仕事・立場を選べない、適性との相性、等々の理由から3年を迎える頃無理を言って辞めさせて頂き、助手として研究生活を再開したのである。

辞めた後も結局は現在に至るまで建築・住宅の省エネ基準、温暖化対策など行政と共に仕事をするようになるのであるが、如何なる形が最も社会に貢献できるかという観点からすれば当時の決断に悔いはない。こうした経緯もあり、取り組むべきテーマを自ら決めることができるという立場の有り難みを常日頃痛感している。学生、OB・OGの進路相談等の際にも色濃く反映されたと思う。

多くの学生が、大人数対象一方向の講義ではなく、卒・修論の過程で、「密」な環境の下、研究打合せ、ゼミ、夏冬合宿、project参加、学会発表等を通じて大化けし、社会に出てから驚くほどの活躍機会、高い評価を得ることになるのを目撃している。コロナ禍の現在、オンラインでの院講義、委員会、学会等を多数経験しているが、高度教育・人材育成の場をオンラインで代替できるのか全く確信が持てない。逆に、これまで如何に多くの微妙な表情・姿勢・声の変化などアナログ情報に頼っていたのかを再認識させられている。

「ヒト」は、生存に有利に作用した様々な感覚器官・意思疎通などにおいて、永きに亘る進化の過程を色濃く引きずっている。今回の感染症の一日も早い終息とかつての環境の復権・回復を願う次第である。

「どうなる?環境、どうする?建築」

建築学科 教授 井上 隆

2020年1月、パリ協定がよいよ本格的スタートを迎えた。ご存知のとおり、破滅的な地球温暖化影響を回避するため、気温上昇幅を産業革命前に比べ2°C(できれば1.5°C)以内に抑えようとする国際的枠組みである。

2015年にパリで採択され、途上国を含む全ての国にCO2排出削減目標策定と国内対策を課す画期的な合意と評価された。

しかるに、この1月にWMO(世界気象機関)から、2019年の世界平均気温は産業革命以前比で既に1.1°C上昇しているとの報告がなされた。温暖化進行は予測以上で事態は非常に逼迫しているのである。実際に昨夏、フランスで46°C、ドイツで42.6°Cという最高気温を記録し、カリフォルニア州、オーストラリアでは大規模森林火災が多発したことは記憶に新しく、さらにこのままでは今世紀末に3~5°C上昇するとの予測がなされている。我が国においても、猛烈な勢力のまま襲来する台風、激しくかつ頻発する集中豪雨、洪水、雪不足、極端な暖冬、海中生態系の変化等々、異変を強く実感する事態が続いている。

他人ごとではなく、建築・住宅分野はこの地球温暖化に深い関わりを有する。建築・住宅が大部分を占めるBuilding Sectorの地球温暖化影響が極めて大きいと指摘されてから久しい。2007年ノーベル平和賞受賞IPCC(国連;気候変動に関する政府間パネル)AR4評価報告書の冒頭にも下記グラフが掲載され建築・住宅分野が最大項目として対策が求められている。

ここで地球温暖化の対策は、緩和策(mitigation)と適応策(adaptation)の2つに分けて論じられているが、建築・住宅はこの両方に極めて深い関係がある。緩和策は、温暖化の進行自体を抑制しようとするいわば根本治療法である。CO2等の排出を今世紀半ば迄に半減、今世紀末には実質ゼロにというパリ協定の目標

も、あるいはわが国の対策基本計画の住宅・業務部門で2030年までに2013年度比40%削減も、また2020年4月施行を目指してきた建築物の省エネ基準適合義務化も、全てこれに沿うものである。本研究室も、建築・住宅の省エネルギー・環境負荷低減をテーマとして活動してきた。実際の建築project(下記写真)に関わりながら、快適性を向上させつつも、30~40%の削減は十分可能であることを実証してきた。また住宅の高断熱・気密化、日射遮蔽性能の向上のみならず、エネルギー消費実態を明らかにし、環境意識の高さを有効な省エネ行動に結びつける活動も行ってきた。緩和策が主であったことになる。

一方の適応策は、海面上昇に対して堤防をかき上げる、浸水対策として電気機械室を上げる、より大きな冷房熱源を備える、などいわば対症療法である。

東日本大震災を契機に広く認識されるようになったBCP(事業継続計画)も同じであるが、地震・津波のみならず、激甚化する台風、洪水、高潮などで発生する広範かつ長期に亘る電力・ガスなどのライフライン途絶についても、対策としては、日頃よりこれらエネルギーインフラに過度に依存しないこと、即ち建築で極力省エネを図った上で、PVや太陽熱利用などによりエネルギーの自立に近づけることが求められる。変動する再生可能エネルギーを、建築・住宅において電気として熱として如何に使い如何に貯めるか、PVやEVをはじめ技術の進歩と共に次々と新たな展開を迎えるであろう非常に興味深いテーマである。ZEH(Zero Energy House)、ZEB(Zero Energy Building)もその延長上に位置付けられる。

難題であり、建築・住宅に携わるものの責任はより重くなるが、これは社会の期待も大きくその評価も高くなることと表裏一体である。制約の増加でなく挑戦機会の拡大と捉え、安全で安心な街・社会づくりに大いに貢献されることを期待している。(出典:2019年度東京理科大学理工学部卒業アルバム)

井上教授の退任に寄せて



はとり だいすけ
羽鳥 大輔

1992年3月 学部卒
1994年3月 修士卒
(井上研3期生)
株式会社三菱地所設計
機械設備設計部 ユニットリーダー

私が大学4年で井上研究室に入ったのが1991年、すでに30年も経ったのかと驚きます。それはM2の先輩から学部生まで3学年が初めて揃った年でした。先生もお若く研究室に活気があり、よく夕食をご一緒させて頂いたり、夏のテニス合宿、冬のスキー合宿等、先生や研究室の仲間と楽しく学び遊んだことは、とても貴重な経験でした。最近の健康志向や政府の2050年カーボンニュートラル宣言など、環境意識がより高まっていますが、研究室にいた当時と世の中の目指している方向性は変わっていないと思います。これまで組織設計事務所等で設備設計をしてきましたが、環境先進ビル環境検証に関わる案件も多く、井上研で学んだ事が実務にとっても役立っています。当時はそのありがたさをそこまで認識できていませんでしたが、今は本当に尊敬できる先生にご指導いただき、「自分はなんてラッキーだったんだろう！」と思います。先生は今でも自転車で毎年3000キロ（去年は6000キロとのこと）を走破されるほどの体力がおりますが、ご健康に、今後ともご指導よろしくお願い致します。



1991年夏合宿の写真 / 後列右から2人目が羽鳥さん、その左隣が井上先生



たかせ こうぞう
高瀬 幸造

2014年4月～2019年3月
東京理科大学理工学部建築学科 井上研助教
2019年4月～
東京理科大学 理工学部建築学科 講師
(2020年4月～高瀬研)

私自身、井上先生と知り合ってからまだ10年余りの時間しか経っていなかったのだという事実に驚いています。2010年当時、学生だった私が同時期に応募した2つの設計コンペで、審査員を務められていた井上先生に気に留めていただけたことが、今日の理科大での私の活動に至る布石になるとは、夢にも思っていませんでした。2014年から助教として参加した井上研ゼミや普段の研究室生活では、井上先生語録というべき金言が随所に散りばめられていました。「上司がいつも正しいことを言っているとは限らない（正しい判断材料を提供されなければ、不適切な指示をすることもある）」「研究成果や資料は一人歩きするから、相手に誤った解釈をされないように正確に伝えること」「物分かりが悪いと言われるのは誉め言葉」等々と、挙げ始めたらキリがありません。また、普段から先生の自然に対する観察眼は広く、学内外で遭遇された自然現象や生物のお

話はとても印象的でした。自然の中の一部としての建築・都市環境はどうあるべきかということへの興味にも繋がっているのだと思います。後継の研究室を持たせていただいた現在、井上先生から得られた学びも活かして、理科大での教育・研究活動を益々発展させていきたいと考えています。



2020年2月の卒修論お疲れ様会
(3月はCovid-19対策で謝恩会自粛となったため井上研としては最後の飲み会)
写真中央が井上先生、その右隣が高瀬さん



ごんどう たかし
権藤 尚

1990年3月 学部卒
1992年3月 修士卒
(井上研1期)
現在 鹿島建設株式会社 技術研究所
建築環境グループ グループ長

私が井上先生に初めてお会いしたのは、卒業論文のテーマについて研究室にご相談に伺った際でした。先生はお一人で部屋を片付けている途中でしたが気軽に相談に乗って頂き、若く物腰の柔らかい方で、これから色々ご指導いただけることを楽しみに感じたことを覚えています。

研究室に入ってから、「学校の授業には正解があったかもしれないが、世の中の課題には正解はない。自分で考えて取り組む事が大事。」といった社会人としての基本姿勢をご指導頂き、物事に取り組む姿勢や考え方など、何もわからなかった自分を3年間に渡り鍛え上げていただきました。先生のご指導の元、自分で考え、試行錯誤しながら成長する非常に貴重な機会でした。研究室での経験を通じて研究への取り組みが実際の社会にいかに関与できるかを学ぶことができ、その後ゼネコンの研究所にて仕事を行うに当たり大きな影響を受けています。また、多くの仲間と切磋琢磨しながら過ごすことができ、研究室で過ごした三年間は私の一番の宝物です。

先生の研究室を卒業した360名の学生も同様に大きな影響を受けてきたと思います。

建築環境分野の業務・研究は当時よりもより一層重要性を増して来ております。今後もいろいろな場面でご指導いただきたく、よろしくお願ひ致します。



卒業アルバムより / 前列真ん中が井上先生、後列右端が権藤さん



さくま たつや
佐久間 達也

奥田研究室
1970年 東京都生まれ
1993年 卒業
1995年 修士課程修了
1995年～2000年 助手(奥田研究室)
2000年 佐久間達也空間計画所設立
現在足利大学、日本工学院専門学校非常勤講師
URL : <http://www1.odn.ne.jp/t-sak/>

2020年11月14日に開催したノダ・アーキサロンは、2019年に引き続き2回目となります。このイベントでは、卒業生で活躍している人やこれからますます活躍する人にスポットを当てて紹介しながら、交流の場を提供していきたいと考えています。今回は主催者と発表者だけ会議室に集まって開催しZoomによるオンラインで配信しました。2部構成とし第1部は崔洪福助教に、第2部は2002年卒業の遠藤隆洋さん、戸部正俊さん、中山智仁さんの3人にそれぞれ講演していただきました。

第1部は「RC分野の材料研究と構造研究をつなぐ」というテーマで、崔助教に話していただきました。崔助教は1988年ソウル生まれで韓国大学大学院生の交換留学として6年前に来日、兼松研で学位を取得した後、衣笠研の助教として教育と研究にあたっています。

授業では材料実験や構造設計法演習を担当されています。部材設計を理論的に検討した上で、実部材を用いて構造実験を行うことで、学生の建築構造への理解を高める試みをされているとのこと。それから博士研究の内容について話してくれました。RC構造物の長寿命化を目指す目的で、溶融亜鉛めっき鉄筋の亜鉛皮膜の防食効果が主題とのこと。鉄筋に溶けた亜鉛を被せて母材の表面に組織をつくるのですが、腐食の様子を取めた写真を見せながら、防食効果が得られる腐食量や、水セメント比との関係、コンクリート中のめっき鉄筋と普通鉄筋の異種間腐食について説明してくれました。コンクリートへの付着力の低下が生じにくい亜鉛腐食量をあきらかにするため、そしてめっき鉄筋と普通鉄筋の付着力を比較するために実際の部材を用いて載荷試験を行ったとのこと。これらの結論として、めっき鉄筋の耐久性の評価から、防食性能と構造性能を同時に確保できることを明らかにしたとのこと。崔助教は今後も教育者としてキャリアを積んでいきたいとのことでした。研究内容は高度ですが、材料と構造を学ぶ人だけでなく実務を行っている人にとっても興味をひくテーマだったと思います。



オンライン講演会場風景②

第2部は3人共通のテーマを「建築デザインと社会をつなぐ～小嶋研出身の同期3人が語る～」として遠藤さん、戸部さん、中山さんに話していただきました。中山さんはZoomによる遠隔の参加となりました。3人は大学院修了まで小嶋研で一緒に過ごした、学生時代から親しい同級生です。

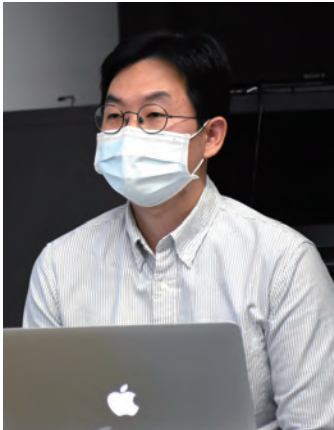
遠藤さんは1978年生まれ、山本理頭設計工場に12年間勤務し、現在は遠藤隆洋建築設計事務所を主催しています。「社会性をもつことシンボリックであることについて」というテーマで話していただきました。

山本理頭設計工場ではコンペで勝って仕事をとることが常で、そのプロジェクトごとに合った空間を作り出すシステムを考えたとのこと。担当した作品のなかから壁にシステムを持たせた作品を2つ紹介してくれました。独立後の作品「北鎌倉の住宅」は、傾いた方形屋根と周辺の緑地に広く開いたガラス開口部が特徴的で、「みんなのための場所」を外側に「ひとりのための場所」を内側に配置した入れ子の平面として計画したとのこと。建築の内側から見た外周面をつなげて広げた展開図が、内部が立体的で、2階建てを平屋のようになだらかに構成したことを分かりやすく表していました。計画中の別荘の模型写真も「北鎌倉の住宅」のように周辺の緑に開いた開放的な計画でした。設計はシンボリックでなくてはいけないのではないか、という言葉が印象に残りました。

戸部さんは1979年生まれで阿部仁史アトリエに6年、スペインの設計事務所に1年在籍した後、2011年から隈研吾建築都市設計事務所に勤務し、現在は同事務所パートナーとして活動しています。「Connecting Architecture design with Society」というテーマで、社会性とは地域に開くというよりも人のこころに開くこととし、プロジェクトの特性を引き出して純度を高め、完成した建築が人々の記憶に残れば建築が社会につながっていることになる、と語りながら作品を2つ紹介してくれました。



オンライン講演会場風景①



ちえ ほんぼく
崔 烘福

1988年 韓国ソウル生まれ
2007年 韓国 漢陽大学 学部
2014年 韓国 漢陽大学 修士課程
2017年 東京理科大学 博士後期課程
2020年～
東京理科大学理工学部建築学科 助教



えんどう たかひろ
遠藤 隆洋

建築家
1978年 東京都生まれ
2004年 東京理科大学大学院修了
(小嶋研究室)
2004年 山本理顕設計工場
2016年～ 遠藤隆洋建築設計事務所
2017年～ 日本工学院八王子専門学校
非常勤講師
2020年～ 関東学院大学非常勤講師



とべ まさとし
戸部 正俊

隈研吾建築都市設計事務所 Partner
1979年 北海道生まれ
2004年 東京理科大学大学院修了
(小嶋研究室)
2004年 阿部仁史アトリエ
2010年 文化庁新進芸術家
海外研修制度にて
Nieto Sobejano Architects, Spain
2011年 隈研吾建築都市設計事務所



なかやま ともひと
中山 智仁

株式会社コンテンポラリーズ・
チーフアーキテクト
1979年 静岡県生まれ
2004年 東京理科大学大学院修了
(小嶋研究室)
2004年～株式会社コンテンポラリーズ
(2015年より同チーフアーキテクト)
2020年～日本工学院専門学校非常勤講師

1つ目は海外での改修プロジェクト「KENZO HOUSE」で、既存の日本庭園を計画の中心に据え、どこに居ても感じられるように視線の抜けを綿密に計画したとのこと。また既存の和風の質感に調和するような自然素材(オーク、漆喰)を採用し、その陰影を美しくみせるように計画したと話してくれました。2つ目は都心で計画中の高層ホテルで、日影規制によって制限される建築ボリュームが近隣に恐怖を与えないように、樹木の流線のように滑らかにオーバーハングする美しい造形とし、タワーの形を見上げた視点からデザインしていること、空地の足を緑豊かにする計画であることを説明してくれました。2つとも品のある緻密な建築で、特に写真やパースがどれも美しいことが印象的でした。

中山さんは1979年生まれで大学院修了後、アトリエであるコンテンポラリーズに就職し、現在は同事務所のチーフアーキテクトとして活動しています。

キーワードとして「公共性、関係性、自然なかたち」を挙げ「市民交流センターえんぱーく」、「黄金町高架下新スタジオ site A」、「南相馬みんなの遊び場」、「日野こもれび納骨堂」を紹介。それから住宅の計画やコンペ応募案も見せてくれました。プロジェクトの多くは公共、民間、NPOが建設や運営に関わり、多くの人達とやり取りしてきたことが想像できました。コンペで勝ち取った「えんぱーく」では図書館や市民サロンが積極的に使われている様子を話してくれました。「南相馬みんなの遊び場」では、サーカス小屋のような外観にして人々が近寄りやすいよう、内部の木組みは手仕事が残るようにと考えたとのこと。「納骨堂」では、外観を民家の集合に模して内部は宗派のない匿名な空間としたとのこと。納骨堂を社会に開きたい、という言葉が印象に残りました。

いくつか質問の後、最後に3人の共通の師である小嶋一浩先生について尋ねてみました。遠藤さんは、身近な人で小嶋先生のアトリエ(C+A)に就職した人はいなかったけれども、小嶋先生は背中を押すのが上手かったとのこと。戸部さんは遠く

を見ろと二十歳の頃に言われることは大事だった、小嶋先生は人を元気にさせた、建築は楽しいことが重要、とのこと。中山さんはチームで建築を作ることを学べたので、その点では社会に出てから苦労していない、とのことでした。

野田建築会では今後もこのイベントを通じて、OBをご紹介していきたいと考えています。

遠藤隆洋建築設計事務所
<https://www.takahiroendo.com/hp/index.html>
隈研吾建築都市設計事務所
<https://kkaa.co.jp>
コンテンポラリーズ
<https://contemporaries.jp>

写真：野原聡哲



講演後の記念撮影

ノンキに暮らすための多忙



さいとう けい
齋藤 慧

2005年 小嶋一浩研究室 学部卒

2006～2008年

バックパッカーとして国内外の都市、建築、人々の暮らしを見て回り、農場やホテルで働いたりしながら旅をする。

2009～2015年 岡村泰之建築設計事務所 勤務。

2015～2017年

フリーランスとして様々な設計事務所で働く。

2017年～一級建築士事務所 ノンキ建築設計事務所設立。現在に至る。

<https://www.nonki-archi.com/>

こんにちは、ノンキ建築設計事務所の齋藤です。

建築設計事務所なので、住宅や店舗の建築設計を生業にしていますが、もう少し小さなスケールの家具作りやDIYをクライアントさんと一緒に行ったり、落語を聴くことが好きで始めた落語会（大好きな噺家さんを、現代建築から古民家まで優れた建築にお呼びする。）を企画・主催したり、イベントのチラシを手作りしていたことから、フライヤー・住宅や店舗に飾るイラストレーションを依頼されて描いたり、何だか具体的な空間づくりとは少しずれているような活動も沢山しています。

建築を作るという事には、様々な定義や思いがあると思いますが、僕自身は具体的な建築を作る設計活動はもちろん、既存の建物を利用してイベントや企画を行ったり、お気に入りの絵を飾ったり、人が集まる空間のルールを工夫することで、いつもの場所が過ごしやすくなったり、人間関係がちょっと円滑になるようなことも広義には建築を作っていくことではないかと考えています。



『階段の住宅』©鳥村鋼一



『毎日使う大きな机』©野毛隼人

思い返せば、自身が幼い頃から図画工作などのものづくりが好きではありましたが、その根本には、自分が作ったり考えたもので家族や友人、周囲の人々が楽しい気分になって欲しい、そんな雰囲気になるような場所を作りたいという欲求があったのだと思います。そして、それが今の僕には『ノンキに過ごす』という言葉に集約されているのだと考えています。

ノンキという言葉はボーッと過ごすだけのようなイメージがあるかもしれませんが、その実、ノンキに過ごす時間を持っている人は、勉強をして知識を蓄えながら情報を更新し、環境を整え、沢山の事前準備をしっかりとっている上で成り立っているような気がします。

誰かがノンキに過ごすことを考えて、自分自身がバタバタと慌ただしくしているというのは、何だか矛盾しているようでもあります。自分自身も含めてノンキに過ごすための多忙というのも悪くないなと思っています。



自身の結婚式でも落語をしてもらいました。
©キッチンミノル

ある蔵とのかかわり

おかだ そういち
岡田 宗一

1978年卒（上原研究室出身）

1978年 日本工営 国内外コンサルタント業務に従事

1982年 羽田他所設計事務所

主に公共建築の設計監理

1987年 岡田建築設計事務所開設 現在に至る

近年、住宅や店舗、街づくりなど
多く手がける

<https://okada-sekkei.com/>

日本建築家協会会員 山形デザインネットワーク理事 NPO法人CAN理事



その蔵は、長い年月の中でその時々々の不足を補うように、様々なものを付け加えられてきた。風雪を避け、併設する工場へ往来するために下屋が取り付けられたのは、その一例である。山形市中心部にある1885年（創業明治18年）創業の（株）丸八やたら漬本舗の蔵再生プロジェクトが持ち上がったのは1992年のことだった。

重厚な扉を持つ一の蔵を改装し座敷を設け、飲食部門「香味庵まるはち」として展開するためである。最初に取り掛かったのは、余分なものを取り除くことであった。建築家として取り組んだのは建築というより、減築であったといえる。2000年には座敷蔵を客席に改装、通路も蔵前ホールとして集う空間とし、少しずつ手を加えていった。2008年の店舗改装と、店名にちなむような「まる八」年おきの改装は、店主のユーモアのある計らいだった。修復された建物群は登録文化財になり、店主の美意識を具現化したような味わいのある空間には、のれんや漬物樽の横にイギリス骨董の教会のベンチシートが置かれている。どんなものを置いても違和感のない空間で、人に対しても、ものに対しても包容力を発揮した。

蔵はやがて「香味庵で会いましょう」という世界に広がる言葉を生み出す場となった。2年おきに開催される「山形国際ドキュメンタリー映画祭」には、様々な問題意識を持った監督と観客が集う。ティーチン後、夜を徹して語り合う場として提供され「香味庵クラブ」と呼ばれるようになった。再生された蔵で、飛び交う言語は何ヶ国語に及んだのか。ドキュメンタリー

を愛する人々が2年後の再会を約して、言い交されたのが前述の言葉であり、「香味庵」の名は帰国とともに世界各地に拡散していった。

残念ながら、コロナ禍にあって店主は2020年5月末日をもって家業をたたむ決意をし、再生に関わった店舗も蔵も解体されてしまう。観光客が多く立ち寄り、文化活動にも貢献したこの店を惜しむ声は多く、保存運動も持ち上がったが、店主の決意は変わらなかった。

とかく建築家は新しい物を生み出す仕事と思われがちである。しかし長い時間を経た建物に寄り添い、支え、伴走し終焉に立ち会うのも、味わいの深いものである。



で出る端材を使った高級木製小物に着目し、自社商品を開発しました。父が開発した商品は50代以上をターゲットとした机上商品で、百貨店、丸善等の小売店や世界文化社、小学館集英社プロダクションなどが出版する通販誌で販売しています。

一方、私は従来とは異なるターゲットに向けた商品が必要だと感じ、2015年から新商品の開発に着手しました。

そして2016年に国産桜材と地元の遠州織物とを組み合わせた木製バック「augmenter」を発表しました。この作品はウッドデザイン賞の上位賞である奨励賞を受賞し、パリやロンドンで先行販売しました。本作品ではその新規性、デザイン性とともに高度な技術も評価され、ファッションデザイナーとのコラボでパリコレにも出展しました。

2018年に発表した「Hako」シリーズはフランス人にデザインを依頼し、天竜ヒノキの根元材を活用した商品で、こちらもウッドデザイン賞特別賞を受賞しました。

さらに2020年のDESIGNART 東京ではunder30に選出され、表参道ヒルズのイベントでも展示されました。本商品はそのシンプルなデザインを具現化した精度の高い技術が評価され、国内外から多くの注文と技術を生かしたオリジナル商品の製作の依頼が来ています。新商品が世界的に評価されたことで、従来の商品も海外への販売が急増し、2020年12月には韓国ソウルに直営店をオープンし、台湾でも誠品書店などで販売するようになりました。今後もグローバル化を目指して新たな商品の開発に取り組んでいきたいと思っています。



Hako



augmenter

家業を引き継いで



やまざき とおる
山崎 徹

1971年 生まれ
1996年 修士課程修了 川向研究室
1996年 (株) NTT ファシリティアーズ
2005年 (有) 豊岡クラフト
2010年 同社代表取締役社長就任
2016年 ウッドデザイン賞奨励賞受賞
グッドデザイン静岡文化賞受賞
2019年 ウッドデザイン賞特別賞受賞
<https://www.toyocraft.com>
<https://www.hakocollection.com>

私は現在、静岡県浜松市で(有)豊岡クラフトという木工会社を経営しています。大学院修了後、約10年大手設計事務所に勤め、通信・放送建築の設計に携わりました。その後、35歳で実家に戻り、木工技術を習得しました。家業は日本楽器を定年退職した祖父が1969年に起業し、当初は精工舎の置時計や掛時計の木枠の製造と当社の下請け会社への技術指導を委託されていました。後に人工衛星の開発技師だった父が戻り、時計枠製造

新任助教のご挨拶



ちえ ほんぼく
崔 烘福 略歴

1988年 韓国ソウル生まれ
2007年～2014年 韓国 漢陽大学 学部
2014年～2016年 韓国 漢陽大学 修士課程
2017年～2020年 東京理科大学 博士後期課程
2020年～ 東京理科大学理工学部
建築学科 助教



おおえ ゆき
大江 由起 略歴

兵庫県神戸市生まれ
2012年 奈良女子大学生活環境学部住環境学科卒業
2014年 奈良女子大学大学院人間文化研究科
住環境学専攻修了（修士課程）
2014年～2017年 シャープ株式会社
2020年 奈良女子大学大学院人間文化研究科
社会生活環境学専攻修了（博士課程）
2020年 東京理科大学理工学部建築学科助教
（吉澤研究室）

始めまして。私は2020年4月から衣笠研究室に所属し、助教に着任させていただきましたチェホンボクと申します。

博士後期課程から理科大に入学し、今年で5年目を迎えています。研究テーマは溶融亜鉛めっき鉄筋のコンクリート中における耐久性・耐震性評価を進めています。

この研究は建築材料と建築構造を合わせた分野であるため、幅広い知識を用いて亜鉛めっき鉄筋の特性を解明するのを楽しみがあります。

また、博士後期課程のとき、国内と海外の学術大会に活発に参加し自分の研究成果を発表した思い出があります。今はコロナの影響で外部活動は制限され、大会の現場参加などは難しいですが、いつか状況がもとに戻ると、また円滑な活動を行えることを期待しています。

現在の仕事は研究以外の業務にも取り組んでいます。学部生の授業に参加し自分の専攻知識を伝えることを楽しんでいます。教育者としての役割も担当することになったため、より責任感をもつ研究者になったと思えました。そのため、学生さんに建築をわかりやすく理解させるための工夫も熱心です。

いつも頑張り続けて毎年成長したいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

2020年4月に吉澤研究室の助教として着任いたしました大江由起と申します。

私は、建築環境工学のなかで、光環境を専門としております。博士論文では、適時適光の実現を目指し、照明計画を行う上での重要な設計変数である照度・色温度及びそれらの調節時間を取り上げ、主観評価実験に基づいて、利用者の年齢及び生活行為に応じた適正条件を明らかにしました。

東京理科大学に着任して、教職員の方々や学生の皆さんにお会いできることを楽しみにしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン授業での授業実施や様々なイベントの中止など、不安と混乱の中でのスタートとなりました。しかし、先生方のサポートや研究室メンバーを始めとする学生の皆さんからエネルギーをいただきながら、新しい環境を楽しみ、一步一步進ませていただいております。

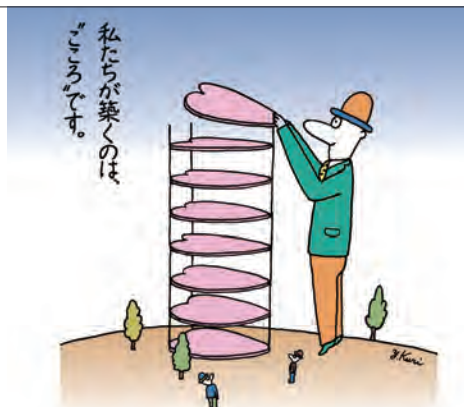
これから、研究者、そして教育者として成長していきたいと考えております。

今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



K&E

ケーアンドイー株式会社

退任教員のご紹介

名前	所属	職位
井上 隆	東京電機大学	客員教授
	東京理科大学	名誉教授 2020.12 ~
松田 頼征	工学院大学 建築学部建築学科	助教

おう ゆしょう 王 兪翔 略歴

1985年 台湾台北市生まれ
 2008年 中原大学デザイン学部建築学科 卒業
 2010年 成功大学計画設計研究科建築学専攻
 修了(修士課程)
 2019年 東京理科大学大学院
 国際火災科学研究科火災科学専攻
 修了(博士課程)
 2020年 東京理科大学理工学部建築学科 助教
 (大宮研究室)



2020年4月に大宮研究室の助教として着任した王兪翔と申します。

アジア地域では地震が頻繁に発生し、地震や津波等の外力による外壁の脱落や柱・梁部材等の耐火被覆の損傷が建築物の耐火性能に与える影響に関する知見は不十分な状況にあります。

私の博士論文の研究内容は、鋼構造建築物の耐火性能予測技術の高度化でした。現在も継続して、新たに進めている津波火災に対する建築物の耐火性能評価手法について、成果を上げていきたいと考えております。

津波避難計画では、高台以外にも津波避難ビルが指定されていますが、それら建築物の総合的防火安全性を評価するために、外壁・ガラスの脱落状況、浸水深、可燃物などを踏まえ、耐火性能を決定する上で用いられる設計火源の評価方法などの確立を行っていきたいと考えております。

助教に着任して、学生として相応しい解決能力と勇気を持った人物に成長する手助けが行えればと思っています。そのためには、自分自身の能力を高めることも怠らず、切磋琢磨していくことが必要と考えております。今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。

■ NAA 紹介動画作成報告

2020年度第8回理窓会関連団体オンライン交流会に向けて、野田建築会の活動を伝えるスライドショー動画を作成しました。

動画制作については皆、素人だったため、試行錯誤しながらではありましたが、google スライドや ZOOM の録画機能等を利用し、なんとか完成させました。

短時間ながらわかりやすい良い動画ができたと思います。



人をつなぐ、街を結ぶ、



原宿駅改良

未来へ延びる。



鉄建建設株式会社

本社：〒101-8366
 東京都千代田区神田三崎町二丁目5番3号
 TEL 03-3221-2152 (代表)

2019年度 NAA 賞紹介



受賞者：金 娜延 きむ なよん

学部 4 年生（2020 年 3 月卒業、兼松研究室）

研究テーマ：フライアッシュセメント硬化体の六価クロム溶出に関する研究

受賞理由

キム ナヨンさんは、韓国からの留学生で、2013 年 4 月に本学理工学部建築学科に入学しました。慣れない異国の環境の下で、持ち前の明るい性格で数々の障壁を粘り強く乗り越え、勉学に励んできました。そして、卒業研究では「フライアッシュセメント硬化体の六価クロム溶出に関する研究」をテーマに取り上げ、精緻でコントロールの難しい化学実験を粘り強くコツコツとこなし、長期供用を想定したフライアッシュからの六価クロム溶出を確認するとともに、高炉スラグ微粉末混合による溶出抑制効果を明らかにしてその対応策を示し、大きな成果を得ることが出来ました。

またキムさんは、入学後まもなくから「写真部」に所属し、長くその運営に力を尽くし、入学式や卒業式、30 周年記念行事などの時節の区切りを介して大学の活動を支え、多くの友人の晴れ舞台に寄り添ってきました。

キムさんのこれら活動に対する感謝と、勉学に対する努力と熱意をたたえ、ここに NAA 賞を贈ります。

研究概要

コンクリートに混入したセメント由来の六価クロム（以下、Cr(VI)）は、長期に亘る供用下で環境中に溶出し、環境や人体に悪影響を与える事が懸念されている。

既往の研究によると、経年劣化を想定した促進炭酸化を施したセメント硬化体では Cr(VI) の固定化能力を失い、Cr(VI) の溶出量が増加する事が報告されている。本研究では、OPC をフライアッシュ II 種及び高炉スラグ微粉末（以下、GGBS）で置換した場合の Cr(VI) 溶出量を評価する事を目的とし、各種養生を施した試験体に対して、OPC と GGBS による FA 混合セメントの Cr(VI) 溶出量の測定を行った。また、コンクリートの長期的な供用を想定した促進炭酸化を施し、構造物の経年による Cr(VI) 溶出量の変化について検討した。

受賞コメント

この度は NAA 賞をいただく事ができ、大変ありがたく思います。初めての研究であり、最初はどう進めていくか戸惑っていましたが、無事卒業論文を完成できたのは、先生方や先輩方のご指導ご鞭撻があったお陰様です。心より感謝を申し上げます。

日本に来て、理科大に入って、本当に良き先生・先輩・友達に出会うことが出来ました。未熟な私に色んな事を教えて下さり、ここまで導いて下さった皆様に感謝しております。社会人になり、世の中は甘くないと実感している最近ですが、理科大での経験を基にこれからも前向きな姿勢で頑張っていきたいと思えます。



今回の NAA 賞副賞

歴史にないものは
自分でつくる。
高砂の100年クオリティ。

1930年 温湿度調整に欠かせないシロッコ型送風機用翼車

1923年創業から空調設備で培ってきた技術力。その誇りを、パイオニア精神を、次の100年へ。

歴史を築く。未来を拓く。高砂熱学の空調設備

環境クリエイター TakasaGo!

 高砂熱学

2019年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各賞受賞者リスト

【理工学部建築学科】

卒業論文賞 (一般コース)	最優秀	吉澤研	武井 津田 あずさ 春乃	建築における「白」の様相 一言説と実測調査に基づいた白の現れの確認
	優秀	伊藤研	須藤 塚本 里佳 寧々	青山地区における空間変容と場所認識に関する研究 - 児童期の遊びを中心とした行動の記憶から -
	優秀	西田研	安田 山本 一貴 祥平	マニラ首都圏の半屋外空間「Covered Court」に関する研究
卒業論文賞 (通年コース)	最優秀	大宮研	門田 悠花	リスクの概念に基づいた火災安全総合性能評価システムの構築
	最優秀	衣笠研	山村 匠	損傷と機能回復時間の関係性に関する研究 都市機能を守る耐震設計法の開発
	優秀	大宮研	池田 友貴 池戸 孝優	散水システムによる延焼拡大防止に関する研究
	優秀	吉澤研	志田 輝	遮蔽物のある窓の眺望性評価指標の提案～人の視覚処理メカニズムを考慮した見えの予測～
	優秀	宮津研	沓澤 亘	モーダルアナリシスと SA によるオイルタンパの配置最適化
	優秀	永野研	菊池 映見佳	スタッドとランナーの接合部に着目した軽量鉄骨下地間仕切り壁の耐震性に関する研究
卒業設計賞	最優秀	山名研	大野 裕介	釀下町捏造 インフラの成立を誤読する設計手法
	優秀	岩岡研	上山 駿介	馬喰・横山のビル - 「都市の骨格」に対する設計手法 -
	優秀	垣野研	朱 泳燕	百人町のうらみち・まなびみち
学業優秀賞	1位	永野研	飯田 里緒	
	2位	大宮研	中里 隆大	
	3位	山名研	富坂 有哉	

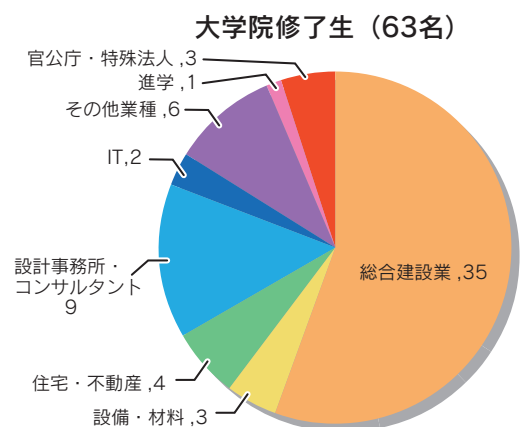
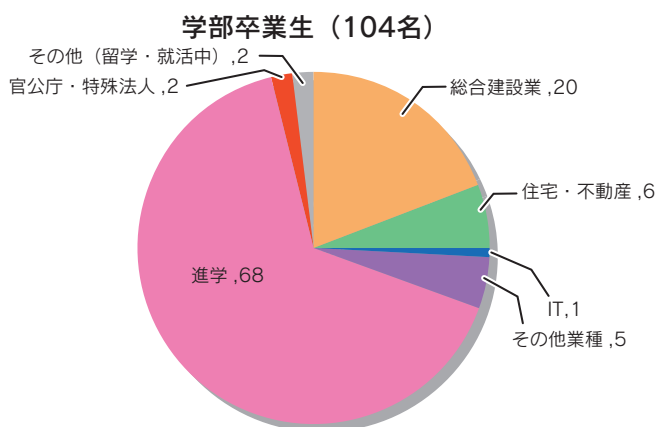
【理工学研究科建築学専攻】

修士設計賞	最優秀作品	西田研	姫野 滉一朗	時の蔵 - 醸造蔵に柵む軛の壊築 -
	優秀作品	伊藤研	盛田 瑠依	風の構築 - 自然環境と建築の距離を測る暮らし方の提案 -
	優秀作品	伊藤研	福嶋 佑太	void urbanism guide - 不安定な都市の暴露と建築の振る舞いについて -
修士研究奨励賞	最優秀賞	永野研	貴堂 峻至	地表断層を伴う強震動予測に向けた地盤震動特性の評価 - 2016年熊本地震の大振幅パルス解釈と浅部・深部断層破壊の影響 -
	優秀賞	吉澤研	岡本 俊英	Volume Photon Map を応用した建築光環境の三次元表現手法 - 人の感じる光場と Photon Flow との関係 -
	優秀賞	兼松研	上野 一貴	
	優秀賞	衣笠研	工藤 陸	耐震補強された RC 造袖壁付き柱部材の靱性能評価手法に関する研究

【共通】

NAA賞		兼松研	金 娜延	
北村春幸賞	最優秀賞	永野研	貴堂 峻至	
	優秀賞	衣笠研	工藤 陸	
	優秀賞	宮津研	下山 雅人	

2019年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各就職先リスト



上原研OB会（故上原先生の遺品作品整理の報告として）

山崎晃弘（1976卒、上原研1期生）

2016年12月8日に逝去された恩師上原孝雄先生のご遺志により、先生がご趣味で製作されたミニチュアチェア作品の一部を遺品として、2020年12月ようやく個別配送することができました。

この配布は、先生が最後に参加された上原研OB会（2016年11月9日）の後、同年11月23日のお礼状のなかに記されていたもので、私がOB会で厚かましくも“OB会最高顧問”を宣言したこと、そして懇願してミニチュアチェア作品写真

集を自主編集制作したことの経緯から、私に委託されたものでした。

その委託からまもなく先生が亡くなられ、あのOB会で恐縮ながらの宣言で、先生がなにか安心されたのかとも想いつつ、生前のご恩の感謝を込めつつ今なおご冥福をお祈りする次第です。

なお、ミニチュアチェア作品の配布は、生前すでに9名に贈呈があり、遺品としての配布は選定した11名でした。



ごあいさつ

先日幹事の山崎晃弘君から、こんどの研究会OB会同窓会で、わたしがかねて手作りしてきた椅子模型を写真集にして皆さんに配りたい、との申し出があった。

これはわたしの老後の道楽で勢いままに作ったもので、とても人様にお披露目できるような代物ではないので、はじめはお断りしようかと思った。ところが、これまでこのOB会や野田建築会などいへん紹介になっている地なら山崎君の提案を無下に断るのも心苦しいし、またこんなものでも同窓会での話題の一助ともなればとも考え、お断りすることにした。

わたしの物作りは造る事が楽しみで、出来上がった物を飾ったり鑑賞するような趣味はほとんどない、したがって約65冊作ったが今残っているのはその半分位、それも収納ケースに収められだまの状態で、これを写真集にしようと思ったこともなかった。しかしそろそろ観がつかずみ手も減ってきて年頃の納め時と思っていた矢先、この写真集はこれまでも鑑賞してつららめ内容のものだが、これも会の余興とご実見あれ、内心では大変有難く思っている。デザイン職の恩人た諸君にはつまらぬ内容の中を写真撮影に、連絡に走り回ってくれた山崎、白羽君を始め幹事諸君の努力に、心より感謝いたします。

2015年8月 上原孝雄



写真集の挨拶



写真集の表紙

なみの会（井口研&永野研同窓会） 近況報告

栗飯原 功一（1985年卒）

“なみの会”は、地震工学系研究室である井口道雄研究室と（現在引き継いでいる）永野正行研究室の合同OB/OG会です。2014年より毎年秋、近況報告会を開催してきましたが、本年はコロナ禍により延期となりました。毎年楽しみにしている同窓陣にとっては辛抱の年となりましたが、なみの会会報にて、先生方のコロナ禍近況、永野研究室での世界を股にかけた活動成果、更には多方面で活躍するOB近況報告等を知り、来年開催にむけての期待をふくらませています。



Y-Chair 製作図面

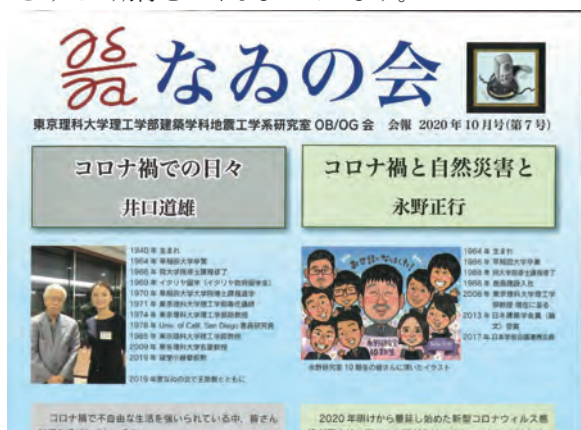
奥田研OB会についてご報告

高安 重一（1989年卒）

2020年の奥田研OB会には集まっては行いませんでした。歴代の助手の方々とも相談しまして、今後は様子を見ながら、Zoomなどのオンラインで行うことも検討しています。

その場合は、大人数では話もしにくいことも考えられますので、数回に分けて開催する案もできています。企画が決まり次第ご案内差し上げます。

メールベースのご案内になると思いますので、いままで奥田研OB会のご案内の届いていない方は、野田建築会のHPのお問い合わせから、「奥田研OB会案内希望」と記載お願いいたします。



葛布 WS

運河生息する植物「葛」を使い、地域の方々とWSを行った。実行委員会WS担当を中心に、葛を「洗う」「煮る」「織る」の三工程を行った。現在は7月の葛布インスタレーションに向けて計画中。



葛の洗い流し方を教えてくださっているトンビ野田の石栗さん



地域の子供たちと葛を織っている様子

パネルディスカッション

9月下旬、歴代の実行委員会の方々をお招きして、二日間のディスカッションを運河駅ギャラリーで行った。テーマは、一日目「起源と本質」、二日目「交流と未来」。「シアターナイト」とは何かを考え直すきっかけとなった。



ディスカッション風景



歴代実行委員会の方々との集合写真

秋月の諧調

10月上旬、実行委員会初代代表である星野善晴さんを中心に、Camerata Projectの方々をお招きして、運河水辺公園で演奏会を行った。秋月の季節、日の入りから月が出るまでの景色の移り変わりを利用して演奏することで、日ごろ見慣れた運河が幻想的な空間へと演出された。



Camerata Project と実行委員会



演奏会の様子



日の入りによってだんだんと風景が移り変わっていく



臨時総会開催のお知らせ

(予定：詳細は追って配信メールまたはHPやFBでご確認ください。)

新型コロナウイルスのため総会などが集会形式をとれないことから、WEB会議等により会議の開催を成立することを明確化するために、規約を一部改正する議案を審議していただきます。

日時 5月22日(土)14:00～15:00

< 2020 ヤマザキ賞 > 山崎 晃弘 (1976年卒上原研)

NAA メールマガジンの中で「最もいきいきとした感性あふれる文章」に対して贈る、2020年度「第2回ヤマザキ賞」の優秀賞に次の2点を選考し、それぞれ賞品 Amazon ギフト券 5000円を贈呈しました。

- ・20200710 メルマガ投稿
自粛期間中に新しく始めたこと：江原聡太 (高瀬研究室 修士1年)
- ・20201117 メルマガ投稿
コロナ渦での就職活動：飯田里緒 (永野研究室 修士1年)

叙勲・褒章受章者紹介

宮宅 勇二氏 (理工建築 1976年卒・兵庫県建築士会会長) 黄綬褒章 2020年秋

【秋号・春号合併について】

本来は2020年秋に発行する予定だった野田建築会会報44号の発行が、2021年春となりましたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。昨年5月に発令された緊急事態宣言と、秋に本号を発行するための編集に必要な期間が重なってしまい、当時先の見えない状況が続く中、秋の会報発行は難しいという判断に至りました。その分、今回の2021年春号は、前回の12ページから16ページに増量し、盛りだくさんの内容をお届けしております。今回の記事では、オンラインで開催したイベントをいくつかご紹介しておりますので、新型コロナウイルスの影響の中でも、工夫しながら活動をしている様子が伝われば幸いです。

【編集後記】

2020年3月、小中学校に突然休校が宣言され日本中の親達が戦慄したあの日から、気がついたら1年が経とうとしています。その後、緊急事態宣言が発令され、野田建築会の役員会議も早々にZOOMを使ったオンライン会議に切り替わりました。さすがはみなさんド理系の理科大生、オンライン環境にもさっと慣れ(ちょっとしたトラブルはありつつも)、資料を画面共有しながらスムーズに会議を進めています。移動の手間が省け、参加場所も問わないので、今後も会議はこのスタイルでいいな～と思っています。もちろんウイルス自体はとっても嫌ですし、いろいろとストレスもありましたが、距離を超えたイベントが開催できたり、効率よい作業の仕方を工夫もできたりと、様々な気づきももたらしたこの1年でもありました。でもやっぱり、音楽ライブや野外フェスは生で体験したいですね！気兼ねなく旅に出たり、人と会って飲んだり食べたりできる普通の日常が、どうか早く戻ってきますように。(とりやまあきこ)

この一年、野田建築会の役員会はZoom開催が100%。アーキサロン以外は役員同士も顔を合わせることはなく執り行われました。移動がなくショートな打合せにも便利であったと思います。直に対話し酒を酌み交わせる喜びを楽しみにもうしばらく自粛の活動を続けます。今回の会報もとりやまさん一人できりまとめで載せております。大野は原稿のチェックのみ。感謝です。(大野)

寄付のお願い

NAAの活動は皆様の普通会員年会費(年額3,000円)を大きな支えとし、会報の広告料収入と有志の皆様からの寄付により運営されています。その構成比率は会費収入67%、広告収入25%、寄付8%(2018年度予算)となっています。今後さらに積極的な活動を行うには寄付の比率を上げる必要があります。NAAへ寄付を頂きますと会報にお名前を掲載させて頂くほか(もちろん匿名も可)、名刺掲載や個人広告等のオプションを考えています。詳しくは野田建築会ホームページからお問合せ下さい。

これを機会に是非皆様からの寄付を頂きますようお願い申し上げます。

会費納入のお願い

NAAでは会則により、2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、OBと語る会の開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。
(注) 年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPでお問合せください。

野田建築会会報 VOL.44 2021 SPRING

2021年3月1日

編集：会報部会(とりやまあきこ/大野芳俊)

発行：東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから――

<http://www.rikadaikenchiku.com>



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

